

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病虫害防除管理です～♪

両沼豆づくり情報 第4号 (通算第4号)

(令和2年10月15日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

〃 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば各営農経済センター



1 大豆の生育概況

6月下旬からの日照不足と7月の長雨・豪雨の影響で、出芽後の初期生育が抑制気味で短茎傾向となっていました。梅雨明け後に天候が回復し、8月中旬から9月中旬までは高温・少雨(図1)で、大豆の生育も回復し、現在、落葉期～成熟期となっています。

農業総合センター会津地域研究所の作柄解析試験の大豆の生育調査では、標播では主茎長、主茎節数は平年並、分枝数はやや少ないものの乾物重は平年並となっています(表1)。

管内の大豆の生育はやや短茎傾向にありますが、着莢は概ね良好で、成熟期に近づいています。今後、青立ち株や大型雑草が残草している場合は手取り等を行い、適期収穫に努めましょう。

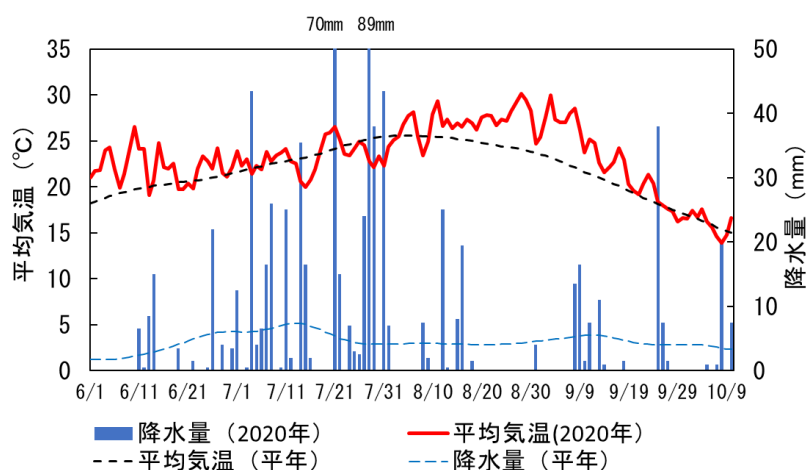


図1 生育期間の気温と降水量の推移 (AMeDAS若松)

表1 作柄解析試験における生育 (農業総合センター会津地域研究所：会津坂下町)

品種名		播種期 (月.日)	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	生育調査(9月1日)				
					草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	乾物重 (g/m ²)
あやこがね	本年	6/1	7/25		130	77	15.8	4.4	855
	前年	5/30	7/25	10/15	123	79	15.0	4.4	849
	平年	5/31	7/24	10/15	121	77	15.8	5.3	822
	平年差比	1	1		107	100	100	83	104
あやこがね	本年	6/19	8/5		122	70	14.1	2.1	674
	前年	6/20	8/3	10/20	133	96	16.1	1.7	695
	平年	6/20	8/3	10/21	122	79	14.9	2.5	713
	平年差比	-1	2		101	88	95	84	94

2 当面の技術対策

(1) 収穫準備

ア ほ場の準備

(ア) 雑草の除去

アメリカセンダングサやシロザなどの大型雑草は、コンバインの損傷やとなり汚損粒の発生原因ともなるため、収穫作業前に抜き取るか刈り取りを行い、次年度以降の雑草

埋土種子量低下のためにほ場外に持ち出しましょう。

(イ) 青立ち株の除去

莢の着生が不良で、莖葉が青いまま残っている青立ち株は、莖葉の茎汁が汚粒の原因となるため、収穫直前までに必ず抜き取りましょう。

(ウ) 雑草が多発したほ場でも・・・

除草剤の使用に失敗し、雑草が多発してしまった。または、中耕・培土ができず残草が多く、もはや手取り除草もできない。そのようなほ場でも、大豆落葉期以降なら非選択性除草剤を使用基準に従い的確に使用することで、雑草を枯死させ大豆を収穫することができます。

表2 大豆の除草剤落葉期処理の使用法

商品名	適用時期	使用量 (散布液量)	適用雑草	使用方法	使用回数
ラウンドアップ マックスロード	落葉期～収穫14 日前まで (雑草生育期)	500ml (50～100L)	1年生雑草	雑草莖葉散布	1

イ 収穫機械等の点検整備

麦類やソバ等で使用できる汎用型コンバインで収穫する場合は、こぎ胴の回転速度や送塵弁の角度等の調整を大豆用にするとともに、大豆用部品（受け網や土抜き板、リールゴム板等）に交換してください。なお、大豆専用コンバインを使用する場合は大豆仕様になっているために交換等は必要ありません。

また、収穫作業の前に必ず清掃を実施し、作業に支障がないか点検を行いましょう。

(2) 収穫作業

ア 収穫開始の目安

概ね平年並の成熟期となっています。計画的な刈り取りで、収穫作業の効率化と迅速化に努めましょう。

表3 成熟期と刈り取り時期の目安

品 種	成熟期	刈り取り時期
あやこがね	10月15日～10月25日	10月25日～11月5日

イ 刈り取りの留意点

最適な刈り取り高さは、中耕培土の有無や大豆の生育状態でほ場ごとに異なるため、試し刈りにより収穫ロスの状況などを確認し、最適な刈り取り高さを決定しますが、概ね10cm～15cmの刈り取り高さを目安とします。

普通型コンバインの収穫では、穀粒損失が低く汚粒の発生が少ない条件が必要なため、つぶれ粒や割れ粒の少ない穀粒水分15～18%、茎水分50%以下（分枝がポキポキ折れる）で収穫作業を行います。具体的には、当日および前日に降雨がなく、水分の高い朝夕を避け、概ね10時頃刈り取り作業を開始し、16時には作業を終了します。

青立ち株や雑草による茎汁による汚れは、クリーナーでも取り除けないため前もって除去します。収穫作業中に土をかき込んだときは、汚粒防止のため作業を停止し安全のためにエンジンを停止して清掃を行いましょう。なお、事前に清掃ポイントを確認しておきます。

ノーミス、ノー事故、農作業！ 9月1日～10月31日は秋の農作業安全運動期間です。
農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しまししょう。
自然災害対応および所得安定のために、農業共済・収入保険に加入しまししょう。